

図書館だより 第八号 発行： 図書委員会

こんにちは、図書委員会です。夏休み前、今年度最初の図書館だよりは、「図書館施設の紹介」と「ブックハンティング推薦図書の紹介」をお届けします。

図書館施設の紹介!!! ~第一弾 ロビー

大抵の人が素通りしているであろう、図書館のロビー。ガラス張りの変な部屋はあるし、閲覧室じゃないのに本があるし、謎の像はあるし……。上級生でも、意外と知らない事が多いのではないかと思います。そこで今回は、図書館のロビーってどういう所なのか、紹介していきたいと思います。

マルチメディア閲覧室



図書館入ってすぐ右手の全面ガラス張りの部屋。それがマルチメディア閲覧室です。最近新しく作られたこの部屋は、会議に使われたりオープンキャンパスの時に茶道部が活動したりしています。「マルチメディア」という名前のわりには、現在は机と椅子が置いてあるだけです。けれど四方に壁が無く透明なので開放感に溢れています。ここで活動すれば間違いなく目立ちまくります。

2体の銅像

ロビーの書棚を挟んで置かれている2体の銅像です。黒い像(左側)は第十八回生の卒業記念品とのこと。白い像(右側)は初代校長・松尾春雄先生によって贈られた品だそうです。注意して見ないと、もしかしたら存在にすら気付いてもらえない像たちですが、どちらの像も服を着てないのは、果たして気のせいでしょうか？



新聞コーナー



ここでは、朝日新聞や毎日新聞、英字新聞など様々な種類の新聞が置かれています。3ヶ月過ぎるまでは別の部屋で全て保管されているので、頼めば見る事も出来ます。ケータイばかりいじらず、たまには新聞を読んでもみるのも気分転換になりますよ。

休憩コーナー&雑誌コーナー

図書館入り口から見て正面にある、ふかふかのソファのある場所。学内にある数少ない憩いの場の一つです。本来は、後ろに陳列されている雑誌をゆっくり読むための空間なのですが、最近では秘かなデートスポット(?)になっているようです。

ここに置かれているのは、閲覧室には収まりきらない様々なジャンルの雑誌の最新号を置いています。最新の号より前の号は貸し出しできますので、カウンターの方で気軽に借りることができます。というか、寂れているので誰かこの本たちに目を向けてやってくださいな。



各コーナーの紹介は、それぞれ違う人に独自の視点で書いてもらいました。普段は「風景」として映っているかもしれないロビーも、こうして見ると違って見えてくるのではないのでしょうか？さて次回は(次回があればの話ですが)、閉架書庫の紹介をしたいと思います。

ブックハンティング推薦図書を紹介

先日、紀伊國屋書店でブックハンティングが行なわれました。ブックハンティングとは、図書館に入荷する本を実際に書店で選ぶ仕事を言います。このコーナーでは、本を選んだ人が書いてくれた推薦文を紹介していきます。今回紹介するのは、「地球温暖化は本当か?」、「ツレがうつになりにまして」、「ドロップ」、「死亡推定時刻」、「ぼく、ドラえもんでした。」、「暗算の達人」、「鳥 デュ・モーリア傑作集」です。



地球温暖化は本当か? 宇宙から眺めたちょっと先の地球予測

著:矢沢 潔

“どのような科学的根拠があって地球温暖化が進んでいるといえるのか”また、“環境変化は人間活動が原因ではなく長い周期における地球の活動サイクルではなのか”など、様々な視点から地球温暖化について書かれています。この本を読むことによって漠然としていた地球温暖化のイメージが変わるのではないだろうか。

ツレがうつになりにまして。

著:細川 昭々

皆さんはうつ病がどんな病気かご存じですか?この本は、著者の旦那さんが「うつ病」になって治るまでを描いた本です。「うつ病がどんな病気なのか?」が実体験を踏まえていろいろ載っています。ヘコんでいる人は是非読んでみて下さい。元気がでます。



ドロップ

著:品川ヒロシ

吉本興業のお笑いコンビ「品川庄司」のネタ担当だけあって、ストーリー性が高い話だと思います。ヤンキーに憧れた主人公が不良と共に動き出す。とても面白い話だと思うので、ぜひ読んでください。

死亡推定時刻

著:朔立木

現役の法律家が描く、長編推理小説!山梨県で地元の有力者の娘が誘拐され、死体となって発見された!県警は、無実の青年を逮捕。執拗な揺さぶりで自白に追い込んでしまう。青年の無罪は証明されるのか?そして真犯人は?スリリングな冤罪ドラマの傑作!



ぼく、ドラえもんでした。 涙と笑いの26年うちあけ話

著:大山のぶ代

今回紹介する本は『ぼく、ドラえもんでした。』です。筆者はドラえもんの声優でおなじみの大山のぶ代さんです。この本にはドラえもんと出会ってからの26年間の想いがぎっしり詰まっています。楽しかったこと、悲しかったことや、ドラえもんに励まされたこと、ドラえもんを通じてたくさんの人との出会いがあったこと。大山さんとドラえもんの26年の気持ちがあふれています。思わず泣いてしまうかもしれないこの1冊、読んでみてはいかが?

暗算の達人 著:アーサー・ベンジャミン、マイケル・シェルマー、訳:岩谷弘

この本であなたも暗算の達人!この本に書かれた1つのテクニックを紹介します。

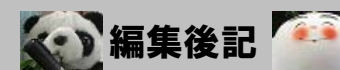
<11と2桁の数の掛け算> 11×36 は $33+66$ で396

つまり答えは上の桁から、11に掛けた数の十の位、十の位と一の位の和、一の位というように決まっています。他にも色々なテクニックが書かれているので、とても役に立つかもしれません。



鳥—デュ・モーリア傑作集 著:ダフネ・デュ・モーリア、訳:務谷夏子

私が推薦するのは、「鳥 デュ・モーリア傑作集」です。表題作の「鳥」はヒッチコック監督の映画で有名になった作品で、ある日突然、鳥たちが人間を襲いはじめるといったホラーな短編物です。その他にも、ミセス・エリスがある出来事をきっかけに周囲の人との記憶が食い違ってくる「裂けた時間」、死んだ妻が陰鬱な木になって嫌がらせをする「林檎の木」など、全八篇を収録しています。



編集後記

「図書館だより」って聞くと、図書館についてや関連イベントをメインとしているものだというイメージがあります。ですが、大抵の事は「図書館報」に持っていかれるのがオチです。そこで今回は、いかにも学生らしい「図書館だより」にしてみようと思い、これまでの本の推薦文の紹介と共に、図書館紹介のコーナーを作ってみました。……いかがでしたか?

言い訳じゃないですが、編集メンバー全員が編集初経験者ばかりでしたので、いたらない点がありましても、ご勘弁願えればと思います。

平成19年7月17日 図書館委員長 鈴木克也